

U15a U1.27 による、宇宙の質量と泡構造と銀河と恒星の生成 (中心が太陽質量のブラックホールに成るために必要な質量)

小堀しづ

私は、2008年9月1日に出願した、特願2008-223099に次のように記した。(中心がブラックホールに成るために必要な質量= 4.965×10^3 太陽質量。中心が太陽質量のブラックホールに成るために必要な質量= 9.458×10^5 太陽質量。中心が太陽質量のB倍のブラックホールに成るために必要な質量= $B \times 9.458 \times 10^5$ 太陽質量。)宇宙の質量は宇宙の中心のブラックホールを作った質量であり、宇宙中心のブラックホールの質量 $\times 9.458 \times 10^5 = 2.631 \times 10^{13}$ 太陽質量 $\times 9.458 \times 10^5 = 2.488 \times 10^{19}$ 太陽質量である。U1.27の質量は、 6.1×10^{18} 太陽質量である。地球の反対側にもU1.27と同じ質量の物が存在する。 $2 \times$ U1.27の質量は、 $2 \times 6.1 \times 10^{18}$ 太陽質量= 1.22×10^{19} 太陽質量である。これは宇宙の質量とほぼ等しい。この事により、宇宙に存在するものは $2 \times$ U1.27だけであり、 $2 \times$ U1.27だけが宇宙を拡大しながら回転していることが理解できる。 $1 \cdot 10^{-16}$ m時代。泡構造の中心となる 10^{11} 太陽質量のブラックホールを作った。これを作るために、 10^{11} 太陽質量 $\times 9.458 \times 10^5 = 9.458 \times 10^{16}$ 太陽質量の原子が使われた。 $2 \cdot 10^{-15}$ m時代。銀河ができた。 10^6 太陽質量のブラックホールを100個作った。これを作るために 10^6 太陽質量 $\times 100$ 個 $\times 9.458 \times 10^5 = 9.458 \times 10^{13}$ 太陽質量の原子が使われた。 $3 \cdot 10^{-14}$ m時代。恒星ができた。1太陽質量の恒星を10¹¹個作った。これを作るために、中心がブラックホールに成るために必要な質量 $\times 10^{11}$ 個= 4.965×10^3 太陽質量 $\times 10^{11}$ 個= 4.965×10^{14} 太陽質量の原子が使われた。 $1 + 2 + 3 = 9.458 \times 10^{16}$ 太陽質量 $+ 9.458 \times 10^{13}$ 太陽質量 $+ 4.965 \times 10^{14}$ 太陽質量 $\doteq 9.458 \times 10^{16}$ 太陽質量。 $73 \times 2 \times 9.458 \times 10^{16}$ 太陽質量= 1.381×10^{19} 太陽質量。